



#### 【33期生国家試験の結果から】

#### I. 第115回看護師国家試験について

##### 1. 合格基準

必修問題及び一般問題を1問1点、状況設定問題を1問2点とし、次の①②すべてを満たしたもの

- ①必修問題 40点以上
- ②一般・状況設定問題 166点以上/249点

なお、第115回国家試験では採点除外等の扱いをした問題が2問あり、午前第32問は採点対象から除外され、午前第80問は複数の選択肢を正解として採点された。一般/状況設定問題のボーダーラインは、第111回に次ぐ2番目に高い結果であった。

##### 2. 必修問題について

昨年と同様、過去に出題された問題(プール問題)からの出題が多かった。プール問題対策が重要となるが、その内容については、過去の一般問題からの類似問題が多くなっている。そのため、必修対策では過去の必修問題だけでなく、一般問題にも取り組ませていく重要性が示唆された。

第115回では正答率60%を下回る低正答率問題はなかったが、全国平均点は45点で前回より1点低くなり、40点未満の学生割合も3.4%と前回から微増

している。全国的な基礎学力の低下が示唆され、人体・疾病などの基礎を固めていくことが重要だと考える。

##### 3. 一般/状況設定問題について

第115回の全国平均点は195点で前回より16点高い結果であった。出題基準別の出題数の変化をみると、出題数が減少した領域は疾病、老年、母性、精神で、中でも疾病は前年が21問だったのに対し、第115回では11問であった。近年では人体・疾病の正答率が他の領域より低い傾向がみられており、病態生理を苦手とする学生が増えてきていることが示唆された。第115回では、疾病に関する問題が減少したため、前年と比較し易化したものとする。

##### 4. 出題傾向について

第115回看護師国家試験問題では、過去問題をアレンジした問題が午前4問、午後11問と多く出題されていた。令和5年に改訂された看護師国家試験出題基準に則した過去問題を、近年の出題傾向を捉え、その選択肢一つひとつにこたえられるような学習が有効であるとする。

状況設定問題は、これまでも頻出している疾患が多かったが、近年の傾向として文章が長文化してお

り、細かい検査データが示されている問題もあった。問題文中の情報を正確に把握し、アセスメントする力を問われる問題が増加している。臨床判断能力の強化が国家試験対策でも求められていることが示唆された。

## II. 当校における結果と今後の課題

### 1. 33期生の看護師国家試験の結果

必修問題の全国平均点 45 点/50 点、当校の平均点 44 点/50 点であり、大きな差はなかった。33 期生の最高得点は 49 点、最低得点は 40 点であった。

一般・状況設定問題の全国平均は 195 点/249 点、当校の平均は 189 点/249 点となり、全国平均に比べ 6 点ほど低い結果であった。33 期生の最高得点は 220 点、最低得点は 166 点であった。

第 115 回看護師国家試験では、受験生の 33 期生 33 名全員が合格点を獲得し、当校の合格率は 100% となった。

### 2. 33期生の国家試験対策支援の取り組み

前年に引き続きメディックメディア社の Web 学習サポートであるカスタマーサクセス看護(以下、CS 看護)を利用して 4 月より国家試験対策支援を行った。10 分テスト(過去問題)を領域別実習と連動させて出題し、実施後は PICKUP 問題(間違えた問題)や「なぜ? どうして?」(詳細な解説)に取り組ませた。夏季休暇中に 10 分テスト全 244 題に取り組んでいた学生は、その後の成績の上昇が大きかった。

学生の知識を定着させるアウトプット学習として模擬試験を活用していった。前半期には 240 問模試の他に必修対策の模試を 3 回実施し、その結果で成績下位学生に対しては解剖生理に取り組ませていった。模試の振り返りではグループ学習を取り入れることで知識の定着を促していった。

後半期に入っても模試の成績が伸びない学生を対象に、外部講師による学習方法ガイダンスを実施した。直前期には、これまで国家試験に向けた勉強に真剣に取り組んでこなかった学生には、一つの問題か

ら知識を深め派生学習をさせるよりも、より多くの問題に触れ出題傾向をつかんでいく勉強法に切り替えていった。

冬期休暇後には、成績不振者を対象に朝学習を実施した。内容は必修問題を中心に人体・疾病の問題を出題し、後半は学生同士で解説するなど、少人数でのグループ学習を取り入れた。例年、1~2 月には授業が無くなるため、個別に学習することを希望する学生が増えてくる。自分にあったスタイルでの学習は尊重したいが、生活リズムの乱れは国家試験本番の体調にも影響するため、朝に学習することを習慣化させるには有効だったと考える。

直前になると過去問題に慣れてしまう学生もいるため、予想問題集から分野別に問題を出題した。出題方法は学生の学習スタイルに応じて CS 看護からの出題と、紙での配布を用意した。実際の国家試験も紙を使用した試験であり、紙や筆記することに慣れることも重要だと考える。今後もデジタルネイティブ世代に合わせた学習スタイルと、従来どおりの学習も活用し、学生一人ひとりにあった学習方法が選択できるよう対応していく。